

モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター



環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

2021年度秋期調査結果概要

2021年度秋期調査結果の概要

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査（以下、「モニ1000調査」とする。）の2021年度秋期調査結果の概要をお知らせします。

最大個体数は一昨年並みに増加

2021年度秋期調査は、2021年8月1日から9月30日までの期間に実施されました。108の調査サイトで調査が実施され、このうち一斉調査（2021年9月19日を基準日とした前後1週間の調査）への参加は92サイトでした。一斉調査期間には、シギ・チドリ類47種11,897羽、ヘラサギ2羽、クロツラヘラサギ47羽が記録され、秋期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計では、シギ・チドリ類55種30,651羽、ヘラサギ4羽、クロツラヘラサギ110羽が記録されました(暫定値)。

2000年秋期以降の「全サイト」と「2000年以降調査が継続されている44サイトのみ」の最大個体数の合計をグラフに示しました (Fig.1)。

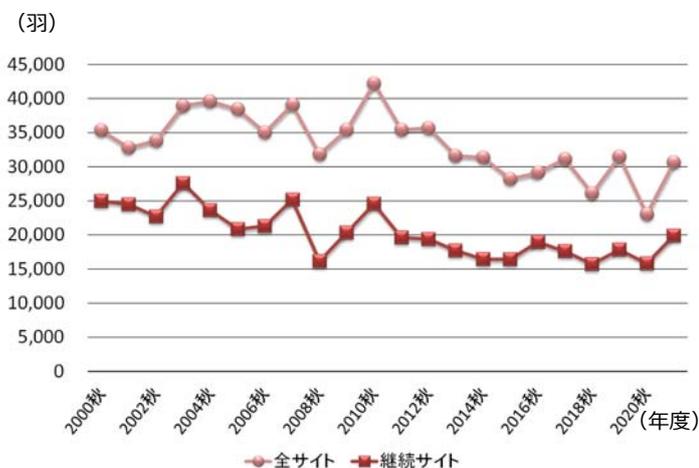


Fig.1 秋期調査における全サイトと調査継続サイトの最大個体数合計の推移 (2000~2021年度の調査継続サイトn=44)

2021年秋期全サイトでの各種の最大個体数の合計値は、前年度秋期と比べ 7,607羽 (33.0%) 増加しており、継続サイトのみでの合計個体数では前年度秋期と比べ 4,083羽 (25.8%) 増加し、一昨年度と同レベルとなっていました。全体としては、振れ幅は見られるものの、2017年頃から横ばいもしくはやや減少傾向のようです。

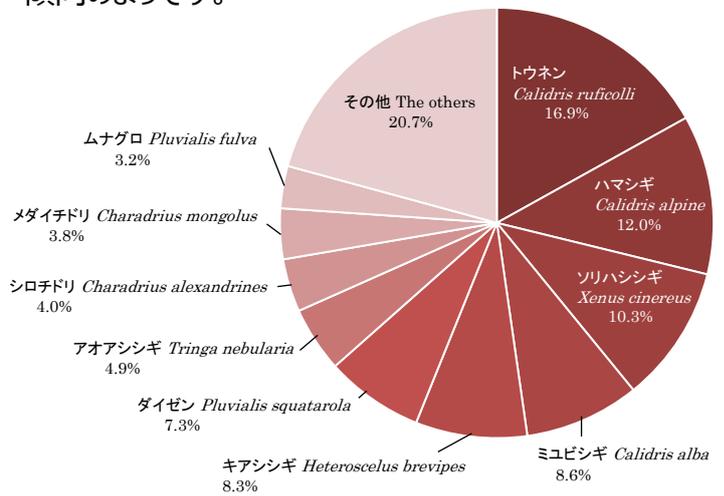


Fig.2 2021年度秋期調査におけるシギ・チドリ類の種構成

最大個体数における優占種の上位5種は、トウネン (16.9%) を筆頭種に、ハマシギ (12.0%)、ソリハシギ (10.3%)、ミュビシギ (8.6%)、キアシシギ (8.3%) の順でした (Fig.2)。昨年度調査で、個体数が少なく優占5位であったトウネンが、優占1位に戻りました (Fig.3)。ハマシギ、ソリハシギは1つずつ

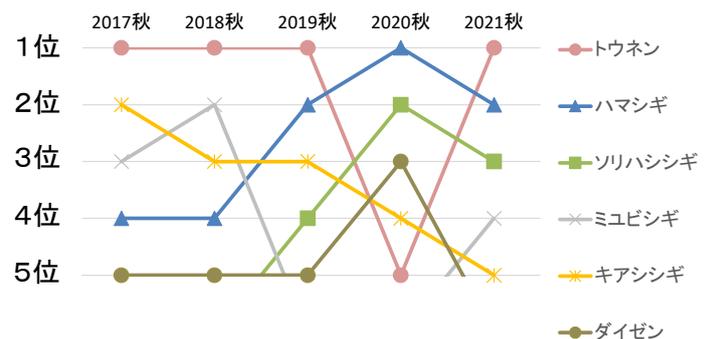


Fig.3 秋期調査における優占上位種の順位 (2017~2021年度)

つ順位を下げ、ミュビシギは4位に上がり、キアシシギは引き続き順位が下がり5位になりました。上位種の最大個体数の推移では（Fig.4）、前年度秋期に比べると、ハマシギはあまり変化がなかったものの、他の上位種は増加しており、特にトウネンの増加が全体の個体

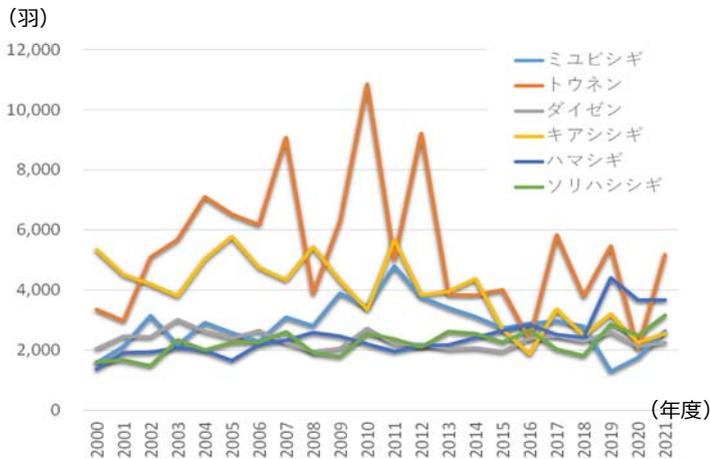


Fig.4 秋期調査における優占上位種の最大個体数合計の推移 (2000～2021年度)

数に影響していると考えられます。

また、100羽以上観察された調査サイトのうち前年度比で増加数が大きかったサイトは、大授搦（佐賀県）、泡瀬干潟（沖縄県）、風蓮湖北部（北海道）、コムケ湖（北海道）、九十九里浜南部（千葉県）であり（Table 1）、前年度が全体的に個体数が少なかったためか、九州、北海道、関東などの例年個体数の多い調査サイトが上位に位置し、約76%のサイトで前年度の個体数を上回っていました。



Photo1 トウネン by 守屋年史

Table 1 秋期調査における増加数上位5サイトと増加率

	2020年度	2021年度	増加数	増加率
大授搦	5227	6123	896	17%
泡瀬干潟	479	1194	715	149%
風蓮湖北部	587	1286	699	119%
コムケ湖	337	1001	664	197%
九十九里浜南部	367	954	587	160%

沖縄でヨーロッパムナグロが記録される

沖縄県の翁長（与根）干潟サイトでヨーロッパムナグロ（英名：European Golden Plover）が1羽観察されました（Photo2）。ロシア中央の極北圏からアイスランドにかけて繁殖し、ヨーロッパ、アフリカ北部で少数が越冬します。留鳥性が高く、日本では数例しか報告のない希なチドリ類です。2021年9月25日に大内力さん・若葉さん夫妻が発見し、9月27日にサイトを担当されている山城正邦さんが調査中に観察記録しました。モニ1000調査では2個

体目の記録となりました。



Photo2 ヨーロッパムナグロ 2021/9/25 by 大内若葉

大阪でアシナガシギが記録される

大阪府でアシナガシギ（英名：Stilt Sandpiper）が1羽観察されました（Photo3）。2021年8月8日に大阪南港野鳥園サイトで黒光和忠さんらによって発見され、その後8月15日に北港南地区サイトにおいて調査中に観察記録されました。北アメリカ北部で繁殖し、南アメリカで越冬し、日本では過去8回しか観察されていない希なシギ類です。近畿地方では初の確認であり、モニ1000調査では、2個体目の記録となりました。今回は、ヨーロッパとアメリ

カの希なシギ・チドリ類が観察されたシーズンとなりました。



Photo3 アシナガシギ 2021/8/8 by 黒光和忠

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:オジロトウネン(守屋年史) 2021年度 秋期調査概要

発行元：環境省自然環境局生物多様性センター

編集：特定非営利活動法人 バードリサーチ

編集者 守屋年史

電話/Fax:042-401-8661

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/>

<http://www.bird-research.jp/>

メール: shigichi@bird-research.jp